

令和8年度ふれあいトーク議事録（布勢地区）

日時 2026/8/4 19:00～20:05

場所 布勢公民館

出席者 34名

市長、政策統括監 総務部長、企画政策部長、市民部長、産業振興部長、建設部長、教育次長、
防災・危機管理監、消防監理監、地域振興課、地域担当職員

進行 19:00～19:05 出席者紹介

19:05～19:10 市長あいさつ

19:10～19:30 市政の概要について（市長説明）

19:30～20:00 意見交換

20:00～20:05 閉会あいさつ 市長、地区代表

	質問の内容	回答
1	■道路工事による迂回路について 震災の影響による川尻橋の修理や、飯久保新町から川尻方面への道路工事に伴い、狭い生活道路やバス道路では交通量が増加し、通勤時間帯には一般車両が速度を出して走行している。高齢者や小中学生、未就学児など地域住民の安全面が懸念される。	■建設部長 迂回・通行止めになる前に迂回路の案内はしているが、その後の交通状況については確認が不十分であった。明日現地の確認を行い、スピードを落とすような掲示を行い対応したい。
2	■道路工事による迂回路について 飯久保新町から布施方面への道路が通行できない影響で、寺飯久保のせんだい橋から深原の水門へ抜ける狭い道路の交通量が従来の約3倍に増えている。同道路は車同士のすれ違いも難しいうえ、小中学生の通学路でもあり、速度を出して走行する車両も見られることから、安全面を懸念している。標識の設置に加えて、運転者に注意を促す具体的な安全対策を検討できないか。	■建設部長 迂回路を通行する車両に対する速度規制は警察の所管となるが、市として対応可能な対策として、工事に伴う看板等を活用した注意喚起を速やかに実施していきたい。
3	■空き家対策について 人口減少に伴い、今後、布勢地区でも空き家がさらに増加することが予想される。砺波市や南砺市では、空き家をそば店や喫茶店などに活用し、県外からの移住者による利用も進んでいる。空き家の増加は、防災や地域環境の面でも課題となるため、氷見市においても補助制度等を活用し、空き家の有効活用をさらに進めてほしい。	■企画政策部長 市では昨年度、空き家対策に関する計画を見直し、移住者向け住宅としての活用に加え、今年度から飲食店や店舗への改修に対する支援も拡充している。空き家は長期間使用しないと活用が難しくなるため、早い段階での利活用を促進したい。また、活用方法が分からない所有者向けに、専門家を交えた無料相談を月2回程度実施しているほか、危険な空き家については解体費用への支援も行っている。
4	■道路工事の復旧状況について 飯久保新町から川尻・布施方面へ抜ける県道について、いつ頃供用できる見込みか。	■建設部長 当該道路は県が整備を進めている。地盤が軟弱なため、盛土による荷重をかけて沈下状況を計測しているが、想定ほど沈下していないことから、現在、県の氷見土木事務所で原因の解析を行っている。解析の結果、安全性が確認されれば次の改良工事に進むが、追加調査が必要となれば、さらに時間を要する可能性がある。現時点では工事開始時期や完成時期は未定であり、解析結果が判明次第、今後の工事予定等を説明したい。市としても県に対し、調査結果を踏まえ、できる限り速やかに整備を進めるよう要望していく。
5	■人口対策について 人口減少、とりわけ若者の転出が進む中、飯久保新町のように若い世代の転入によって地域の高齢化を抑えた事例もある。結婚後に氷見市へ移住・定住した若者に対し、住宅取得時に大幅な補助を行うなど、近隣市町村から若者を呼び込む思い切った施策を検討してはどうか。前例にとらわれず、新しい発想で積極的に人口減少対策を進めてほしい。	■企画政策部長 市では、移住者に対して空き家改修費の2分の1、上限100万円の補助や、住宅新築時の支援を行っている。また、若者の市外流出を抑えるため、今年度から市内在住者のマイホーム取得支援も20万円から50万円へ拡充した。今後は金銭的支援だけでなく、若者や女性が将来に希望を持って住み続けられる魅力的なまちづくりを進める。人口減少対策の計画には若者向け住宅団地の造成等も盛り込んでおり、今後、実現に向けて様々な施策を組み合わせながら取り組んでいきたい。

6	■道路の整備時期について 県道整備について、完成時期の目安として、あと5年、6年といった具体的な見通しは示せるか。	■建設部長 現時点では具体的な完成時期は示せないが、現在実施している地盤等の試験結果がまとまれば、その結果を踏まえて今後の工事スケジュールや必要な事業期間の見通しを示せるものと考えている。試験結果については、県から地元への説明が行われるよう要望するとともに、説明の機会がない場合には、市から県に確認し、区長や地区役員等を通じて情報を伝えていきたい。
7	■防災意識の向上について 1週間前に熊本地震があった、地震などの災害はいつ発生するか分からないため、地域住民が安心・安全に生活できるよう、日頃から防災訓練を重ねることが重要である。布勢地区においても、住民が集まり、災害時の避難場所や避難方法を確認し、避難マップなどを活用しながら、子どもを含め地域全体で行動を共有しておく必要があるのではないか。	■防災・危機管理監 市では毎年、防災訓練を実施しており、今年度は9月6日に自主防災訓練を予定している。災害時には自助・共助・公助が重要であり、平時から必要な備えや地域内で支援が必要な方への対応などを住民同士で考えておくことが大切である。市としても広報や訓練を通じて防災意識の向上に取り組んでいくので、引き続き地域での協力をお願いしたい。